

くもんの 中学

基礎がため100^{パーセント}%

中3国語 読解編

解答と解説

- ・難しい問題には解説がついています。よく読みましょう。
- ・(例)は、自分で言葉を考えて書く問題の解答例です。同じような意味であれば、解答と全く同じ答えでなくても正解です。
- ・別解は、()の中に示してあります。()の中の答えでも正解です。

くもん出版

↑この本を2冊同時に購入してください。別冊解説も付きます。

一章 説明文 1 指示語

基本問題①

p. 4 確認 ★ (1) 卵 (2) セーター

① (1) メダカ

(2) 洋服

(3) 大きな山

(4) 写真

(1) 小さな駅

(2) お店

(3) 様々な実験

(4) 池

(5) パン屋

(6) 小学校

(1) 北海道

(2) 草の上

(3) 鈴木さん

(4) 遊歩道

(5) カリフォルニア

3

一章 説明文 1 指示語

基本問題②

p. 6 ① (1) 近所 おじいさん

(2) 人 高波

(3) プレゼント クリスマス

2

(1) 情報がコンピューター回線を通じて世界中に伝わる

(2) 自分のできることから始めよう

(3) 手当たりしだいに探す

(1) 自分の意見ばかり主張している

(2) 必要以上のエネルギーを消費しない努力

(3) ピアノの練習を続け

(4) すばらしい野球選手

(1) 目に見えないもののけが引き起こす

(2) 水星・金星・火星・木星・土星

(3) 祖父母、父、母、姉、そしてぼく

(4) ① 兄 ② 弟

4

一章 説明文 1 指示語

基本問題③

p. 8 ① 事件

② 単なる情報

③ ① 試験観測の初画像

② 鮮やかな天体像

④ 長所と短所 知ること

① 腕によりをかけて豪華な弁当を作ろうとする

② 報道されなかった 報道された 重要な

③ ① 自分の存在 視覚的に認められない

② 真の闇

2

④ コーンちゃんが手でつくったおかゆを、ひよいと男の子の口もとに近づけ、食べさせてやった

一章 説明文 1 指示語

標準問題

p. 10 ① (1) 自分の抱いているイメージ

(2) 例 砂漠といえば、「果てしない銀色の砂の海」を思い描く

(3) ③ イ ④ ウ ⑤ ア

解説 ③は筆者が思い描いていた砂漠の「果てしない銀色の砂の海」のイメージ、④は、筆者のイメージとはちがうが、「砂の海」の部分、ということ、

⑤は「石ころだらけ…」だった実際のサハラの、

ということ。

(4) 新しいイメージ 誕生

解説 前の段落に体験した具体的内容が書かれている。それは抱いていたイメージが裏切られた体験である。

p. 11 ② (1) 室根山 大漁旗

解説 「それ」は「意外な光景」であり、山に海の大漁旗がひるがえったことを指す。

(2) 室根山

(3) ブナ、ミズキなどの落葉広葉樹

(4) 漁民 植林

2

一章 説明文 2 接続語

基本問題①

p. 12 ① ★ A A B ウ

① イ

② ア

③ ウ

④ ア

② イ

③ イ

④ ウ

p. 13

2

① イ

② ア

③ ウ

④ ア

p. 14

一章 説明文 2 接続語

基本問題②

① 運動会 連合運動会

② あいまい 明確

2

- ① (1) 貧弱 貧弱
- (2) イ
- ② (1) 難点 弱点
- (2) ウ

一章 説明文 2 接続語

基本問題③

1

① ウ
 解説 「食い違っている」から、「落胆と失意の旅」になるので、順接の接続詞である。

2 ア

解説 「ギリシャの神殿」も「エジプトやインカの巨大な遺跡」も、または、「ヨーロッパの壮麗な石造りの町」も、という文脈である。

3 イ

解説 □の前後で別の話題になっていることに注目しよう。

4 イ

解説 □のあとで、「命の綱」とはどういうことを説明していることに注目しよう。

5 イ

解説 □の前では、情報が知識と誤解されやすいという考えが述べられ、あとで、コンピュータとネットワークの存在を、その例として挙げている。

6 ア

解説 □の前で、「どんな天体であったのか」という疑問を提示し、あとでは、「どのようにして形成され、進化してきたであろうか」という疑問を加えていることに注目しよう。

2

A イ B イ C ア D ウ

解説 Aの前後は逆の内容になっている。Bは、「調整、消灯」または「撤去」という関係である。Cのあとでは、前に述べた事柄に別の条件が加わるなら、というただし書きを付け加えている。Dのあとの文の「〜からである」に注目しよう。理由を述べている。

一章 説明文 2 接続語

標準問題

1

(1) つまり

(2) B エ D イ

解説 Bの前では、「胸に描いていたイメージ」と「実際の遺跡」とが食い違っていると述べ、あとでは、「落胆と失意の旅」と述べている。前に述べたことに対する当然の結果があとに続くので、Eが入る。Dは写真を友人に見せたら、一見して「言った」と続くので、Eが入る。

(3) ① 実際の遺跡 ② イ

2

- (1) A エ B イ

解説 □の前は、「やるせない」、あとでは「思い直していきかせる」ので、「けれども」などの逆接の接続語になる。

解説 Aの前では、マスメディアが出来事を「選択」して伝えていると述べ、Aのあとでは、それだけでなく、「加工」もしていると付け加えている。

また、Bのあとでは、「報道のしかた」の例が挙げられている。

(2) 加工 報道のしかた

解説 「問題は〜ことにあります。」という文の構造に着目する。「そして」の前後に問題が二点述べられている。

(3) い

解説 入れる文の「もう一つの典型は」に着目する。「一つの典型を、わたしは『鳥瞰情報型』とよびます。」として、その内容が「鳥瞰図のように報道するものです。」までに述べられている。このことをとらえると、(い)に入ることがわかる。

(4) イ

解説 「あるいは」は、いくつかの事柄を列挙したり、どれかを選択したりする場合に使われる。Aは、説明を補足し、ウは、前の結果が述べられている。

一章 説明文 3 内容の理解

基本問題①

確認

★ ① 他と区別できる違いがはっきりしていないもの

② すがたが定まらないもの (順不同)

・等身大の猫の置物 ・陶器の置物

明るい不思議な大宴会

(1) A ア B イ

解説 普通、「あいさつが不可欠」なのは知り合いどうしである。

(2) 木や石のように無視する

解説 — 線部の「木石と考える」とは、人間でなく木や石のように考えろという意味。

3 2 1

一章 説明文 3 内容の理解

基本問題②

2 1

新しい自然の環境

(1) 共有性の保証人 地球村を支える屋台骨

(2) 共有

解説 マスメディアが出来事を共有できる形で伝えるからこそ、わたしたちもそれらの出来事を共有することが可能という文脈をおさえる。

3

A 有 B 無

解説 子供たちは「何もないただの空き地」すなわち、

4

- A ア
- B イ
- C ア
- D イ
- E イ
- F イ
- G ア
- H イ

「無」を選んだということに注目しよう。したがって、Bに「無」が入る。

解説 Aは直前に「すなわち」とあるので、「言葉」を身につけるための営み」を受けて「言葉」が入る。C・Gも「イヌ」という「言葉」につながる。B・D・F・Hは文脈から、イヌという生き物を見た「経験」ということである。

一章 説明文 3 内容の理解

標準問題

p.24

1

- (1) 自然と対話しながら暮らす

解説 線①は、自然の営みにあわせて羊飼いの仕事をするということである。そのような生活のリズムを表す表現を探そう。

- (2) A イ B ア

解説 「世の中はいろいろ変わるけど」とあるので、Aのあとには逆の内容が続くと考えよう。また、羊飼いをやめた人にとっては、かつての生活で大切だったことが、今ではもう大切でないということからBを考えよう。

- (3) ① 羊飼いたち
- ② 現代の消費文明

p.25

2

- (1) ① 益鳥 ② スズメ ③ 稲を食べる

解説 あとの段落の初めの「これに対して」に注目しよう。前の段落で「ツバメ」について述べ、あとの段落で比較する形で「スズメ」について述べている。

- (2) A ウ B イ

解説 ツバメは大切にされ、スズメは害鳥として追い払われたということから考えよう。

- (3) 特別に大切にされる

解説 「農耕文明の価値感」とは、農耕にとって良いか悪いか、役に立つか害になるかでそのものの価値を決めることである。

一章 説明文 4 段落の要点と文章構成 基本問題①

p.26

1

- ★ ① 文明 ② 人々

① 知識 情報

2

- ② うれしくなる 遊び
- ① ウ ② ア
- ① イ ② ウ

解説 ②段落は「ツバメ」について説明していることに注目しよう。

p.27

一章 説明文 4 段落の要点と文章構成 基本問題②

p.28

1

- ① 旅行 ② 世界

- ① 供給 ② 森 腐葉土 海

- ① ゴキブリ ② 仲間 ③ 共通

- ② ① 動揺する だじなもの
- ② ① ものを考えさせる

解説 暗い夜の意義について、①で述べた意見を、②でさらに補強している。

一章 説明文 4 段落の要点と文章構成 基本問題③

p.30

1

- (1) コーンちゃん 食べさせてやった
- (2) 他人への思いやり

- (3) イ

解説 ④段落では、③段落で述べた驚きがさらに分析して述べられていることを読み取ろう。

2

- (1) ウ
- (2) 文字 臨場感
- (3) ア

解説 ①・②段落を受けて③段落があるが、テレビと新聞のどちらが優れているかは書かれていないので、イは誤り。また、テレビと新聞の得意とする表現を述べているだけではないので、ウも誤りである。

p.31

p.32

一章 説明文 4 段落の要点と文章構成 標準問題

1

- (1) イ

② 最良の場所 マウナケア山

③ ア

解説 ③段落の初めの「また」に注目しよう。②段落に加えて述べられた段落であることから、②・③段落を一つにしたアが答えとなる。

一章 説明文 5 筆者の意見と要旨 基本問題①

p.33

2

- (1) 視力 目
- (2) 猫は視覚的な動物である。

③ ア

解説 ①段落と⑥段落は、どちらも猫が視覚的な動物であることが述べられている。

④ イ

⑤ ア

⑥ イ

⑦ ア

⑧ イ

⑨ ア

⑩ イ

⑪ ア

⑫ イ

⑬ ア

⑭ イ

⑮ ア

⑯ イ

⑰ ア

⑱ イ

⑲ ア

⑳ イ

p.34

1

- ★ 考える能力

シラスウナギ 川

解説 アは第二段落の初めの部分、イはそれに続く部分の内容である。筆者の意見としては最後の二文が重要なので、ウが正しい。

p.35

2

- ウ

解説 アは第二段落の初めの部分、イはそれに続く部分の内容である。筆者の意見としては最後の二文が重要なので、ウが正しい。

3

- イ

解説 アは第二段落の初めの部分、イはそれに続く部分の内容である。筆者の意見としては最後の二文が重要なので、ウが正しい。

解説 筆者は、文章の最初にあるように「人との語り合いの重要性」について述べていて、自分と違う立場の人との語り合いを重視している。アは、「同じ立場の他者」が誤り。ウは、「多くの人々の意見に従う」が誤り。

一章 説明文

5 筆者の意見と要旨

基本問題②

p.36

21

イ ア

解説 筆者は、言葉をたくさん身につけることによって経験の意味がわかると説明している。

3

ウ

解説 廃棄物を焼いて処理することの問題点を述べているが、イのように、質素な生活を心がけることは述べられていない。

4

ウ

解説 情報と意味の関係を正確にとらえたものはウ。アは、「言葉の情報」を「固定したもの」としているのが誤り。イは、「だれもが同じ情報の意味を得る」が誤り。

一章 説明文

5 筆者の意見と要旨

標準問題

p.38

1

(1) ア

考えていることから、イが正解とわかる。

(2) わけもなく涙が出てくる

解説 「目頭が熱くなる」は、感動して涙ぐんでくる、という意味の慣用句。

(3) a ア b イ c イ

解説 冒頭からの会話文から「百聞は一見にしかず」というのがテレビ派、「涙が出てくる」というのが体験派の言葉とわかる。cには、胸を打つ話をした体験派が入る。

(4) 決定的瞬間を見逃したくないという未練

解説 もしテレビを消して、大事なシーンが見られなると残念だ、という「未練」の気持ちである。

(5) ウ

解説 ジャン・ボードリヤール氏の言葉に注目しよう。(6) テレビの画面が隠す現実を見透かす鋭い眼を持つていなければならないということ。
解説 指示語の内容は前の部分にあることが多い。

p.41

一章 説明文

完成問題②

p.42

◆ (1) エ

解説 前に「文章というものを…植物の一種のように考えている」とあることから、Aは「その人たち」

p.39

2

(1) イ

解説 アは文章の内容と全く逆である。
解説 「はやりすたり」とは、一時的にもはやされたり、もてはやされなかつたりすること。家畜や農作物の品種が人々の好みに左右される、ということから同じ意味の言葉を十三字をヒントに探そう。

(2) その時代の人々の生活や好み

解説 「はやりすたり」とは、一時的にもはやされたり、もてはやされなかつたりすること。家畜や農作物の品種が人々の好みに左右される、ということから同じ意味の言葉を十三字をヒントに探そう。

(3) ウ

解説 筆者の意見は、「〜と思うのである。」という最後の文にあることに注目しよう。

一章 説明文

完成問題①

p.40

◆ (1) イ

解説 テレビを見て現地のことかわかったと言っているので、テレビが最も現場の様子を伝えていると

が考えているもの、つまり「植物」である。BとCは、「人間が計画し構成する」や「材料が必要」などから「建築物」である。

(2) イ

(3) 事実や観念

解説 文章を書くために用意するもので、自分の主張したい論点を証明するものである。

(4) イ

(5) 材料を実際に使う場合の順序を決定

解説 第四段落(「第三に、…：…：…：…」)に「この点が特に大切なように思われます。」とあることに注目しよう。

書いてみよう

例 「IT革命」という言葉に、「産業革命」の時代に生きていた人々がどんな感じだったのか、少しわかった気がした。何かの力で世の中が変わっていると実感するからだ。(77字)

p.43

二章 小説

1 場面をとらえる

基本問題①

p.44

確認

★

時 十一月

場所 丘

登場人物 柘太

できごと 柘太 絵

1

(1) (どこ) 上野公園に古くからある西洋料理店 (だれ) ルロイ修道士

2

(2) 春

解説 「桜の花はもうとうに散って、葉桜にはまだ間があつて」とあることに注目しよう。

- (1) 寛政
- (2) ① 喜助 ② 弟殺し
- (3) ① 羽田庄兵衛

② 神妙 逆らわぬ こびる

解説 「喜助の様子を見るに、……態度ではない。」の部分に書かれている。

二章小説

1 場面をとらえる

基本問題②

21

担架 韋駄天走り 息せききつて

(1) デッキ

(2) そつと手で

(3) かついでいる

3

(1) ア

(2) ① お母さん

② カッチャン 水

③ 汗 塗つてやる

解説 文章の初めにあるように、お母さんはカッチャンのために「水」を求めていることを読み取ろう。

た長兄が現れたから。(29字)

解説 「戦死したはずの長兄が現れたから」という内容が書かれていれば正解。

② 土蔵の二階の明かり窓の下で芥川龍之介を読んでいた

(2) 一範兄さん

解説 「入り口に立ちただかつていた」とあるので、死んだはずの長兄のことだとわかる。字数の指定があることに注意しよう。

③は、おどろきで目を見開いていた様子である。これと対照的な目の表情について描写されているところを探そう。

(4) おどろき

解説 兄が生きて戻つたことの「喜び」よりも「おどろき」が勝っていたのである。

二章小説

2 心情を読み取る

基本問題①

1

★ 心情が直接表される 寂しき(「寂しい」も正解。)

心情が間接的に表される 孤独

1

(1) 名残惜しい気はしない

(2) イ

(3) たまらなく悲しい

二章小説

1 場面をとらえる

基本問題③

1

(1) 文四郎 ふく(順不同)

(2) その声で、くまいった。

解説 「見ればあいさつをする」という態度が変わつて、よそよそしくなった様子が書かれている部分を探そう。

2

(1) ルントウ 子供のころの思い出

3

(1) そっけない態度 心当たり

4

(2) 「そんな」

解説 「その話をしたときの小和田逸平の言葉が先に書かれている。その言葉からが回想である。(わたし) ア (ルントウ) イ

解説 「わたしは口がきけなかった」とあるので、ウの「話が尽きないでいる」という様子ではない。

二章小説

1 場面をとらえる

標準問題

1

(1) 例 模擬テストの結果が出た

(2) 東山だけは

(3) 顔色が変わつた

2

(1) ① 例 戦死の公報が来て、遺品が墓に葬られてい

2

(1) 痛さ 重さ

(2) それごと

解説 「思い」とあるので、由美が茂に対して、どんな感情でいるかわかる部分を探そう。直接的な言葉で表現されている。

3

(1) 甘いにお

(2) イ

解説 「甘いにおうようなささやき」が聞こえてきたあとの気持ちであることに注意しよう。「空が膨らんでいるように思えた」のは、由美の心も膨らむような気持ちだったからだと考えられる。

二章小説

2 心情を読み取る

基本問題②

1

(1) 人工的(「無個性」でも正解。)無表情 にせもの

(2) 怒り ほくほくでありたい

(3) ウ

解説 「ほく」は仮面に疑問を感じているので、ウはあてはまらない。

2

(1) 寒さ 空模様 冷たい風 鉛色 活気 わびしい

(2) ウ

解説 わびしい村々の様子に寂寥を覚えているのだから、アやイのような前向きな感情ではない。

(3) 故郷 寂寥 別れ 楽しい

一章小説

2 心情を読み取る

基本問題③

p.56

1 イ

【解説】直後に「事の重大さに胸をどきどきさせながら」とあるのに注目しよう。「息を止める」という慣用表現の意味(驚きのあまり、息を止めること)がわからなくても、前後の文脈から「ぼく」の心情が推測できる。

(2) 例 寂しそうで、悲しみさえたたえているが、とても美しい。

【解説】彼女の素顔については、——線②の直後の二文に書かれている。

(3) ① ぼくと同じ側にいる人間

② イ

【解説】「ぼく」は仮面をはずす彼女のことをとがめる気にもならず、自分と同じ考えだと思ひ、「初めて同類に会えたのだ。」というのだから、この出会いに感動を覚えているのである。

(1) ア

【解説】「僕はグラウンドに背を向け……」や、「僕はかまわず歩き続けた」などに、「僕」が徹也に腹を立てている気持ちが表れている。

(2) 別人 かけ声 重苦しい

イ

p.57

2

【解説】徹也が、「話がある」と言って「僕」の前に回り込んで、見つめた様子から考えよう。

一章小説

2 心情を読み取る

標準問題

p.58

1 ア

【解説】少年は彼女のことを「好き」なのである。彼女の姿が目に入った時に「心はおどった」と考えられるから、アが適切。

(2) A イ B ア

【解説】文脈上適切な言葉を考えて入れる問題である。空欄の前後の言葉から判断しよう。

(3) ① 例 気恥ずかしかった(8字)

② 例 電車に乗りおくれそうだった(13字)

【解説】①は、「小さな声」「急ぎ足になった」「逃げるようにして」とあることから、彼女に会って恥ずかしがっている少年の気持ちを読み取ろう。

②は彼女が「何分の電車に乗るの? おくれそう?」と聞いたことから考えよう。

(1) ① 父親は「しっか

② イ

【解説】父親は辺りを見回して「わしは逃げる。」と言っている。このままここにいたら、二人とも命を落

p.59

2

(2) もの心ついた キャッチボール

(3) イ

【解説】——線②より前の部分にも、「ぼく」が一範兄の野球についてきたとき、「蹴された」とある。何かわけがあつて、兄たちは一範兄の野球の話題をさけたのである。

(1) ① 監督官 木づち たたきつぶした

② 日曜日は休ませてほしい

【解説】「カトリック者は日曜日の労働を戒律で禁じられている」ので、ルロイ修道士はこのように申し入れたのである。

(3) 例 心の底では日本人を憎んでいるので、気を付けるべき人物だ。

(2) 優しかった 泥だらけ

p.63

2

一章小説

3 人物像をつかむ

基本問題③

p.64

1

(1) ① 石像

② ア

【解説】「まるで石像のように」という比喻表現に注目しよう。レントウは、首を左右に振って、現在の境遇が厳しいものであることを説明している。

(2) 昼飯 品物 くれてやろう

(3) でくのぼう

一章小説

2 心情を読み取る

基本問題③

p.60

1

【解説】「こんな対面」の父親と少年の二人それぞれが複雑な思いであることを読み取ろう。ほかに方法がなかったとはいえ、自分を捨てて逃げた父親の行動は、少年を傷つけたであろう。

(2) 逃げて出した 間の悪い

(3) ア

とすと考えたのである。

とすと考えたのである。

(1) ア

【解説】「僕はグラウンドに背を向け……」や、「僕はかまわず歩き続けた」などに、「僕」が徹也に腹を立てている気持ちが表れている。

(2) 別人 かけ声 重苦しい

イ

一章小説

3 人物像をつかむ

基本問題①

p.61

1

【解説】直後に「事の重大さに胸をどきどきさせながら」とあるのに注目しよう。「息を止める」という慣用表現の意味(驚きのあまり、息を止めること)がわからなくても、前後の文脈から「ぼく」の心情が推測できる。

(2) 例 寂しそうで、悲しみさえたたえているが、とても美しい。

(3) ① ぼくと同じ側にいる人間

② イ

【解説】「ぼく」は仮面をはずす彼女のことをとがめる気にもならず、自分と同じ考えだと思ひ、「初めて同類に会えたのだ。」というのだから、この出会いに感動を覚えているのである。

(2) 別人 かけ声 重苦しい

イ

一章小説

3 人物像をつかむ

基本問題②

p.62

1

(1) F 中野球部

2

解説 「でくのぼう」とは、役に立たない人間のこと。

- (1) 高瀬舟の幸領
- (2) 遊山船にでも乗ったような顔
- (3) 喜助
- (4) 高瀬舟 弟 楽しそう 悪人

解説 庄兵衛は、喜助の顔を見て不思議な思いでいる。それは、喜助が罪人でありながら、楽しそうな様子であることに納得がゆかないからである。

子であることに納得がゆかないからである。

二章小説 3 人物像をつかむ

標準問題

1

- (1) 例 やまかがしに指をかまれたから。
「やまかがし」は「蛇」でも正解。
- (2) ア
- (3) イ

解説 「手を文四郎にゆたねて」などから、ふくは文四郎に素直に従っていることを読み取ろう。

- (4) ア・ウ(順不同)

解説 蛇の毒からふくを守ろうとする様子や、「心配するな。それに武家の子は…」という言葉などから、文四郎の人物像を読み取ろう。

2

- (1) 祐太
- (2) 例 目つきが鋭く鼻の頭がぶつぶつになっているから。

- (3) ア・ウ(順不同)
- 解説 「ゴジラ爺」は祐太にとって「あまり好きな感じはなかった」存在である。
- (4) ・不思議な老人 ・威張った老人(順不同)

二章小説 4 表現に注意する

基本問題①

1

擬音語 湯気 ポワツ

擬人法 断末魔

直喩法 悪夢 ような

- (1) ア
- (2) ① イ ② 風 擬人法
- (3) 電車 飛行機 イ

1

二章小説 4 表現に注意する

基本問題②

1

- (1) イ
- (2) 海辺で耕作
- (3) ウ
- (4) 松の幹のような手

解説 直喩は「『ような』」などの言葉で表現されることを覚えておこう。

2

- (1) A ウ B ア C イ
- (2) ぐったりした

3

十五 徹也 百 直美 約束

二章小説 5 主題をとらえる

基本問題②

1

- (1) 警察 仮面 素顔
- (2) 彼女 仮面
- (3) 素顔同盟

解説 川の上流には、素顔で暮らしている集団があると、「ぼく」はうわきで聞いていたのである。

解説 彼女に声をかけなかったことを後悔していた「ぼく」は、今度こそ、「ためらいもなく」自分の信じる道を進もうと思ったのである。

- (1) 死ぬ 天国
- (2) イ

解説 前後の文脈に注目しよう。「わたし」に「本当に天国がありますか。」と問われて答えたのである。ルロイ修道士は「そのために、……神様を信じてきたのです。」と言っていることにも注目しよう。

- (3) にぎやかな天国
- (4) イ

解説 「わたし」は自分で自分をしかっているのである。イの「ルロイ修道士へのうらみ」はあてはまらない。

二章小説 4 表現に注意する

標準問題

1

- (1) 半ば消え入
- (2) ウ

解説 直美のことを思うと鼓動が「切なげ」に聞こえ、生きてほしいと強く思うのである。

- (3) 聞こえないはずの音
- (4) ア
- (1) キャッチボール 会話
- (2) ア
- (3) イ

解説 「会話をしているような気分」とあるので、「ぼく」は実際に会話をしているわけではない。

- (4) まるで何か

二章小説 5 主題をとらえる

基本問題①

1

- ★ イ
- (1) イ
- (2) ア

2

- ア
- (2) 驚異

2

- (1) キャッチボール 会話
- (2) ア
- (3) イ

一章小説

5 主題をとらえる

標準問題

p.78

1

(1) ささやかな一人旅

(2) イ

解説

「一人で電車に乗ったことのなかったテル」は、初めて一人で電車に乗れる「願ってもないチャンス」を逃したくなかったのである。

(3) 母親 心配

(4) イ

解説

テルは母親に「大丈夫だよ」と言っているし、一人で出かけられることに期待感をもっている。

p.79

2

(1) ① 心 隔絶 ② 一つ心

(2) ② 香炉と燭台

(3) ③ 新しい生活

(4) ア

解説

地上には、もともと道があったわけではなく、歩く人がいて道ができたのである。それと同じで、希望も、希望をもつ人が多くなれば、実現に向かうのだということ。

一章小説

完成問題①

p.80

◆

(1) 神様がこしらえた野球

解説

「先輩」が「つまらない野球」をやめて、どんな

p.83

(2) 例 さかあがりできた(成功した)こと。

(3) 例 男は常に(いつも)鉄棒から離れていた

例 男が消えていた(男はどこにもいなかった)

解説

鉄棒を越えるときには男の掌に尻を支えられているのに、着地したときには男はいつも離れたところにいるのを、真一は不思議に思っている。

(4) 工

解説

物心がつく前に父をなくした真一にとって、父の記憶はないはずだが、だれかに見守られて何かをやりとげた達成感が、遠い昔の記憶が蘇ったような心地よさだったのである。

書いてみよう

例 小学三年生の夏休み、祖父母の家へ行くのに一人で新幹線に乗った。母に駅まで送ってもらい、到着駅に祖母が待っていたので、心配はなかった。でも、一人で乗った三時間の落ち着かなさは今も覚えている。祖母の顔を見たときは、本当にうれしかった。(115字)

p.84

三章 随筆

筆者の体験や思いを読み取る 基本問題①

確認

★ 筆者の置かれた状況の把握 戦争 負けた

筆者の思いの把握 びっくり

1

(1) て使った。

(2) すじさ すばらしさ

p.81

野球をやろうと言ったのかに注目しよう。

(2) ① ウ

② 自分のためだけに野球をしない

解説

文章の最後の方の冷泉の言葉に注目しよう。「自分のためだけに野球をしない人間になればいい……」と言っている。

(3) ア

解説

直後の「いつも後になって、分かる……」に注目しよう。野球のすばらしさも「先輩」の病状も、後で分かったのだ。アの内容は書かれていない。

(4) 例 茂が父親を誇りにしているということ。

解説

文末の句点を忘れないように注意する。

(5) イ

解説

由美が、「すみませんでした。何も知らないで。」と言っていることに注目しよう。試合に出られない茂をふびんに思っただけで冷泉を訪ねたのだったが、冷泉の話聞いて、夫の悟の思いや冷泉の気持ちを知って、いたたまれなくなったのである。

一章小説

完成問題②

p.82

◆

(1) イ

解説

なんとしてもさかあがり成功させたいと思っただけで「鉄棒を強く握りしめた」のである。

p.85

2

(1) しかたがない

(2) (こく) あたりまえ

(3) ① 苦痛 ・ 絶望 (順不同)

(2) 生きてゆけそう

p.86

三章 随筆

筆者の体験や思いを読み取る 基本問題②

1

(1) もともと

(2) 心のこめ方

(3) サラダ・記念日 (順不同)

(2) 恋の気持ち 輝き

3

(1) ① ことばを使う

(2) 心の筋肉

解説

直後に説明されていることに注目。「心の筋肉」という隠喩が用いられている。

(2) ことば

(3) 心 ことば

(4) イ

解説

筆者は、豊かな心には豊かなことばが詰まっている、と考えていることをおさえよう。愛する人からの「ことばの花束」のプレゼントは、そこに心が詰まっているからなによりうれしいのである。

三章 随筆

筆者の体験や思いを読み取る

標準問題

p.88

1

- (1) インタビュー
- (2) 話を続けた
- (3) イ

解説 二人は納得いくまで話し続け、インタビューが終わってからも、「まだ」話し続けた、という文脈である。

p.89

2

- (1) 寒くてひもじかった
- (2) ・小声 ・優しいひとみ
- (3) ウ
- (4) ウ

解説 線③の前後をよく読もう。「ありがたかった」、「涙がスープの…」さりげない親切「などから、ウの「みじめさ」はあてはまらない。
 (例) フランスを嫌いになることはないという思い。
 (例) 人類に絶望することはないという思い。

三章 随筆

完成問題①

p.90

◆

- (1) まるで石のように微動だにせず
- (2) 先生の声が
- (3) ・わたし ・クニコ (順不同)
- (4) 工

p.91

- (5) ウ

解説 「日本非難の矢面に立たなかつたことで「子供」の部分」が救われたのである。子供としては、非難されたり、除外されたりするようならいことは避けたいのである。

(例) 国際関係の複雑なからみ合いを解明していく仕事につきたいということ。
 (例) 平和の追求にかかわる仕事につきたいということ。

三章 随筆

完成問題②

p.92

◆

- (1) 工
- (2) ア

解説 「不十分な雨支度」や、「富士山も見られない降り」なのに、旅をエンジョイする姿がたくましく見えたのである。

(3) ウ
解説 今見ている景色がもう見られなと思うと、「夢中」になるという文脈である。

(4) イ
解説 各選択肢の内容と一致する本文の記述を探そう。本文に「行きが楽しく、帰りがうれしい」とある

p.93

ので、イは誤り。本文には「一年に何度も旅に出かけている」とは書かれていないのでウも誤り。工は、本文に「千鳥がけに歩いて引つかかってばかり」とあるので誤りである。
 (6) つくづく旅

書いてみよう
 (例) 父に連れられて初めて海を見たとき、波の音のリズムが心地よく、海の向こうの世界を想像して、心が弾んだ。
 (50字)

四章 詩

1 詩の種類・表現技法

基本問題①

p.94

確認

- ★ 詩の種類 口語自由詩
- 表現技法 体言止め

1

- (1) 文語詩
- (2) 定型詩 文語定型詩

2

- (1) 口語自由詩
- (2) 倒置法
- (3) 擬音語
- (4) 嵐 比喻表現

p.95

四章 詩

2 詩の鑑賞

基本問題①

p.98

確認

- ★ 様子をとらえる 岩 魚 (順不同)
- 心情をとらえる いかにも爽やかだ 岩 魚 精い

主題に迫る
 (1) 流れ
 (2) ア

p.99

◆

- (1) 君
- (2) われ 君
- (3) ア

p.97

2

- (2) 死と焰
- (3) ① 反復法 ② 対句法
- (4) こもれ・したたれ (順不同)
- (1) 倒置法
- ① 体言止め ② 対句法
- ③ わたしは網をはって待っている
- ④ 「網をはってわたしは待っている」でも正解。

解説 第三連には体言止めと倒置法が用いられている。「存在」を印象づけ、「わたしは待っている」を強調する効果をあげている。
 (3) 信じている

四章 詩

1 詩の種類・表現技法

基本問題②

p.96

1

- (1) みどり・青葉 (順不同)

(4) イ↓エ↓ア→ウ

四章詩 2 詩の鑑賞

基本問題②

p.100 ① (1) 蜂 水 出てくる

(2) 雲 花 衣装

(3) 工 (言葉) 天であるか (表現技法) 反復法

(2) 物理的 抽象的 神々 人間の知恵 高み

(3) ア

【解説】 詩の中の言葉と鑑賞文を対応させて考えよう。

「その果実」は「秋になって熟れていく果実」であり、「天」とは「人の知恵のとどかない神秘」と対応しているので、アが答えとわかる。

四章詩 3 俳句

基本問題①

p.102 ① ★ (1) 初句切れ

(2) 天の川

(1) 切れ字 初句切れ

(2) 季語 秋

(3) 木々 体言止め

(1) 六 五 七 五

(2) 椿 春

p.103 ②

四章詩

完成問題①

p.106 ① (1) 初

(2) 花火

(3) ウ

【解説】 「花火」はウの「大螢(螢)」と同じ夏の季語である。アの季語は「たんぼぼ」で春、イは「八夜」で春、エは「蜜柑・枯野」で冬の季語である。

(4) はじめの音

(5) 例 夜空いっばいに広がった花火の色や音、そして

それを見て楽しんでる人々の姿。(37字)

【解説】 花火が上がって開いた瞬間の色や音、花火を見

ている人々のことは詠んでいないが、その光景が想像できる句である。

(1) 口語自由詩

(2) イ

(3) 食わずには

【解説】 の直後の「生きてこれなかった」は一行

目の「生きてゆけない」と同じような意味であることから「食わずには」が入る。

(4) 私の目にはじめてあふれる獣の涙。

【解説】 直接心情を表す言葉はなく、最後の行に気持ち

がこめられていることを読み取ろう。

p.107 ②

③

- (1) けり 句切れなし
(2) 万緑 夏
(3) や 中間切れ
(4) 咳 自由律俳句

四章詩 3 俳句

基本問題②

p.104 ① (1) A (季語) 雪 (季節) 冬

(2) B (季語) すずき (季節) 秋

(3) A けり B かな

(4) いくたびも

【解説】 作者は、病床にあつて雪の様子を見られないも

どかしきから、何度も家族に雪の深さを尋ねているのである。

(1) ① すずき ② はらりと(「はらり」でも正解。)

(2) 自由律俳句

(3) (季語) 夏河 A 夏

(4) 十七

(5) 切れ字

(6) イ

(7) イ

【解説】 「うれしさよ」からは、イの「おそろおそろる河を

越えて行く」ということは感じられない。

p.105 ②

四章詩

完成問題②

p.108 ◆ (1) 口語自由詩

(2) 工

【解説】 アの「言いきりの表現」、イの「文語的な表

現」、ウの「定型の力強いリズム」がこの詩の表現にあてはまらない。

(3) 仲立ち

【解説】 「虹」は第一連では「虫や風」にあたることに注

目する。「虫や風」の働きを考えよう。

(4) ウ

(5) ウ

【解説】 生命はお互いに支えあいながらこの世に存在し

ていると作者は考えていることをとらえよう。

書いてみよう

例 「生命は自分自身だけでは完結できない」という言葉に

はっとした。だれかに支えられていることを意識せずに

いたことに気づかされた思いだった。(67字)

p.109

五章 古典 1 歴史的仮名遣い 基本問題①

- 確認 ★ ① あわれ ② におい
③ えほん ④ おかし

- 1 かわら ② つかい
③ いう ④ かえす

- 6 5 4 3 2
① かいせき ② がいぶん
③ いうとき ④ しゅうか
① こうべ ② しょうり
③ ようがい ④ ぞうり
① 散るらん ② 参りなん

- 7 えちご ⑧ かおる
① いじ ② いずみ
① こおり ⑥ いのしし

五章 古典 1 歴史的仮名遣い 基本問題②

- 確認 ① ようよう ② やまびわ
② かかく ② ゆきこう(※「ゆきかう」も可。)

- p.113
④ えいよう ② いっすい
③ まず ④ きたかみがわ
① いう ② とつてかえし
③ いわお ④ とじて

- 5 はいて ⑥ じゃくまく
① なお ② おもいやれば
③ わびあえる ④ わたらん
⑤ さるおりしも ⑥ いお

五章 古典 2 古文の読解 基本問題①

確認 ★ 古語の意味 永遠 旅人
古文特有の表現 舟の上 馬のくつわ 馬子

p.115 ◆ 表現技法 年 舟の上に生涯を浮かべ
わたし 旅
春霞 白河の関
「春」と「霞」は、順不同
春 わびしい 華やかな

五章 古典 2 古文の読解 基本問題②

p.116 ① 経堂・光堂(順不同)
金の柱霜雪に朽ちて
とつくにゝるはずが
五月雨 夏 光堂

p.117 ② イ・エ(順不同)
イ

五章 古典 3 和歌の鑑賞 基本問題①

p.118 確認 ★ 句切れと調べ 四句
表現技法 (1) 香具山 体言止め
(2) 倒置法
(3) 枕詞

p.119 ① 二句
② 梅
③ ぞ
① 柳かけ 係り結び
② 三句切れ 七五 体言止め

p.120 ① 大器 晩成
② 待た
③ 富士山 登る

五章 古典 4 漢文の読み方 基本問題①

p.121 ① 施
② 子曰はく、「己の欲せざる所は、人に施すこと勿かれ。」
と。

p.122 ① 漢詩の形式 四 五言絶句
② 七言絶句
① 孟浩然
② 孟浩然
③ 黄鶴楼を去っていく孟浩然を、李白が見送っていることをおさえよう。
李白が見送って

解説 古語「いと」は古文によく出る言葉。意味はよく問われるので、覚えておこう。

- (3) 尼そぎ 目 髪 物
(4) ウ

五章 古典 5 漢詩を読む 基本問題①

p.123 ② 城 ② イ
① 別れを恨みては鳥にも心を驚かす
③ 三行目と対句になっていて、組み立てが同じである。
あることに気づけば、書き下しも容易である。

p.121 ③ 而 不 学
② 学びて思はざれば則ち罔し。
① 思 而 不 学
③ 而 不 亦 君 子 平。

p.122 ① 漢詩の形式 四 五言絶句
② 七言絶句
① 孟浩然
② 孟浩然
③ 黄鶴楼を去っていく孟浩然を、李白が見送っていることをおさえよう。
李白が見送って

五章 古典 4 漢文の読み方 基本問題①

p.120 ① 大器 晩成
② 待た
③ 富士山 登る

- 1 ① 日 己
② 欲 所

五章 古典

完成問題①

p.124

1

- (1) a まず b すぐつて

- (2) イ

- (3) ① イ ② 兼房

解説

「こもつた」のは「義臣」であることをおさえよう。その名前は曾良の句にある「兼房」である。

- (4) さても義臣

解説

「夏草や……」の俳句は、「夏草が生いしげつている。ここは昔、藤原三代が栄華を極め義経らが戦った所だが、その栄華も今は夢のようである。」という意味である。この情景を具体的に表した文を探そう。

p.125

2

- (1) 幸くあれ

- (2) イ

- (3) 三

解説

「かげもなし」でいったん意味が切れる。

- (4) F

- (5) ① A ② F ③ E

解説

①の「月」を歌っているのはAのみ。②は「馬に乗った」「雪」から、Fとわかる。③の「陽気」は「ひかりのどけき春の日」のことである。選択肢の言葉にあてはまる表現を歌の中に見つけることが、歌の説明や、鑑賞文を選ぶコツである。

五章 古典

完成問題②

p.126

1

- (1) イ

解説

全体が四行なので絶句で、一行が七字である。

- (2) 工

- (3) 霜 如_レ雪_、

- (4) われはたきぎをひろはん

- (5) ウ

解説

一・二行目で、同じような友達がいると言っていることに注目しよう。

p.127

2

- (1) ウ

- (2) 梅 あるじ

- (3) 工

解説

「是なんあるじ」と言った人物が問われている。作者が訪ねた人物が外出中だったので、留守を守る男に「主人の代わりに梅の花がわたしを迎えてくれる」と作者が言ったのである。

- (4) うしないて

- (5) 草の戸

- (6) イ

書いてみよう

例 わたしはバラ、特に真紅のバラが好き。なぜなら、色がきれいで、香りがいいし、気品があると思うからだ。(49字)